

# 国指定史跡 小牧野遺跡



## 青い森 八甲田山嶺によみがえる縄文空間

小牧野遺跡は、青森市野沢字小牧野に所在し、縄文時代後期前半(約4,000年前)に造られた環状列石(ストーンサークル)を主体とする遺跡です。

環状列石は、付近の川から運搬された約2,900個もの河原石によって造られ、直径35m、29m、2.5mの3重の輪から構成されています。

また、環状列石は、縦横に石垣状に組まれ「小牧野式」とも呼ばれる全国的にも類例の少ない特異な形態を呈しています。これまでの発掘調査では、環状列石のほかに土器棺墓や土坑墓群、貯蔵穴群、捨て場跡、道路状遺構、湧水遺構等が確認されており、岩版類等の祭祀性の強い遺物も極めて多量に出土しています。小牧野遺跡は、環状列石の用途や性格を考える上で有効な情報を提示する遺跡として注目されています。

青森市教育委員会では、平成2年度から環状列石の解明ならびに史跡公園の実現を目指し発掘調査を行ってきており、平成7年3月に青森市としては初の国指定史跡となり、平成13年8月には追加指定を受け遺跡の範囲が拡大されました。



<http://www.city.aomori.aomori.jp/>

# 環状列石を見てみよう!

小牧野遺跡のシンボルでもある環状列石は、現在、遺跡内で露出展示されており、約4,000年前の縄文時代の当時の姿を見学することができます。



小牧野の特殊組石



環状列石



小牧野遺跡の配列



環状列石



ミニチュア環状列石 (環状列石の模型)

## 環状列石の配置

環状列石は、直径35mの外帯、29mの内帯、2.5mの中央帯の三重の輪で構成されています。

外帯と内帯は、特異で規則的に石が配置されています。その組み方は、小判形の石を縦に置き、その両側に平らな石を3~6個ほど積み重ね、これを繰り返すことによって形作られています。こうした組石は「小牧野式」配列と呼ばれ、近年、秋田県北秋田市の伊勢堂岱遺跡で発見された環状列石の一部にも、この小牧野式の組石が見られます。中央帯は、推定約500kgの巨石が中央に、その周りに20~30cmの棒状の石が配置されています。

## 環状列石とは

縄文人は、石を矢じりやオノなどの道具に加工して使用するだけでなく、石に願いを込め、大地に立て、並べ、さらにそれらを組み合わせたりもしました。それらが環状に形作られたものが「環状列石(ストーンサークル)」です。

環状列石は、1万年以上続く縄文時代の後半期、東日本を中心に盛んに造られるようになります。

環状列石には、径30mを超える大きなものから、径2m前後の小さなものまであり、また、墓を伴うものやそうでないものなど様々あります。



地鎮山環状列石  
(北海道小樽市)



西崎山環状列石  
(北海道余市町)

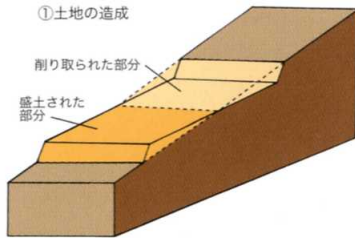


# 環状列石と 土木工事

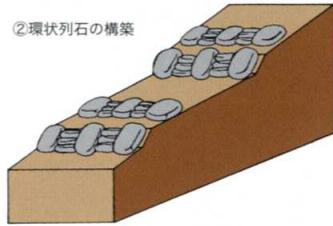
環状列石が造られる前、その場所は緩やかな斜面で形成されていました。

小牧野縄文人は、はじめに①のように、斜面の高い方を削り取り、削り取った土を低い方に盛土しました。その作業を繰り返すことによって中央に広場が造成されました。その後、石を川から運び込み、「小牧野式」配列の規則に従い石が並べられました。石は、削り取られた部分や盛土された部分の段を利用して並べられているため、立体的な構造となっています。

①土地の造成



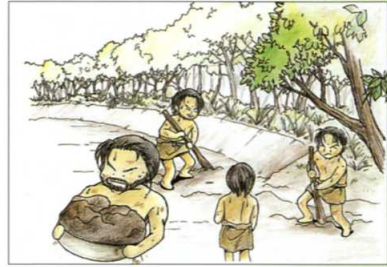
②環状列石の構築



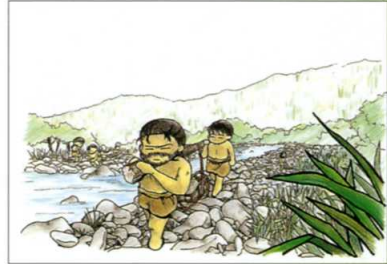
環状列石の構築方法



# イラストで見る 環状列石の 作り方



縄文人たちは、環状列石を造る前に斜面を削って平らにするという大がかりな土木工事をおこなっていた。



土木工事を終えると、台地の下を流れる荒川から、石を運ぶ作業をおこなった。



運んできた石を、縄文人たちは縦横に繰り返し並べ、3重の輪を造り、環状列石を完成させた。



想定される石の運搬経路



# 石は どこから

環状列石を形作っている石は、現在約2,900個を数え、安山岩と石英安山岩で構成されており、同様の石が遺跡の東側を流れる「荒川」一帯から運ばれたものと考えられます。

なお、平成9年までの環状列石の総重量は推定26,788kg、平均11.8kgを計測しています。



遺跡の東側を流れる荒川



太師森環状列石  
(青森県平川市)



大湯環状列石  
(秋田県鹿角市)



伊勢堂岱環状列石  
(秋田県北秋田市)



湯舟沢環状列石  
(岩手県滝沢村)

# 住と墓

環状列石を作った人々は、いったいどこに住んでいたのでしょうか。また、彼らはどのような生活を送っていたのでしょうか。

小牧野遺跡のこれまでの発掘調査では、環状列石とともに、縄文人が住んでいたと考えられる竪穴住居跡や貯蔵穴、捨て場、湧水遺構など生活維持に必要な遺構のほか、土坑墓や土器棺墓など墓制に関わる遺構が発見されています。





環状列石周辺の遺構配置 (S = 1 / 1,250)



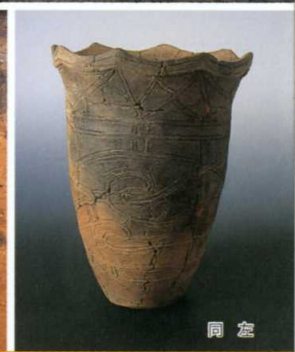
土坑墓



配石墓



埋設土器



同左

## 土器棺墓とは

土器棺墓とは、一度、墓に埋葬した遺体を、肉が朽ちた数年後に骨を取り出し、その遺骨を右写真のような土器棺に納め、再び埋葬する施設のことで、再葬墓とも呼ばれています。小牧野遺跡からは、環状列石の内帯と外帯の間から、合計3基の土器棺墓が発見されています。

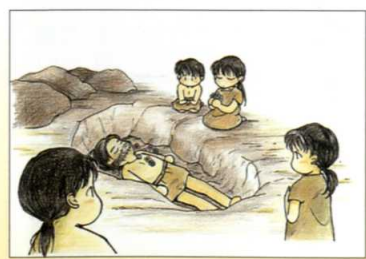


土器棺墓



復元された土器棺

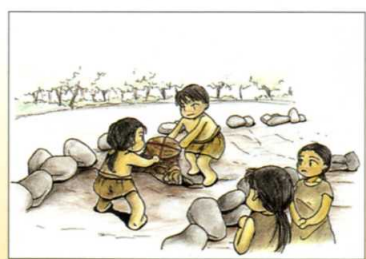
## イラストで見る土器棺墓の埋葬風景



亡がらを、一度土坑墓などに埋葬する。



数年後に骨を取り出し、土器棺に納骨する。



納骨した土器棺を地中に埋納する。

# 道具と祭り

小牧野遺跡では、墓域や捨て場を中心に土器や石器など日常的に使用された道具のほか、土偶や

鐸形土製品、岩版類など、お祭りやお祈りに使用されたと思われる遺物が見つっています。特に、三角形岩版は、300点以上もの出土が確認されており、環状列石で行われた儀式などで使用されたものと思われます。



様々な形の土器



赤く塗られた初砂壺



注口土器



狩りや調理などに使用された石器類



様々な大きさの石斧



動物や植物の意匠のある遺物



土偶と鐸形土製品



土器の破片を利用して作られた土版類



様々な形をした石製品



## 三角形岩版とは

三角形岩版は、泥岩や凝灰岩を用いて、三角形に形作られたもので、北海道南部から秋田県北部の遺跡から見つっています。

小牧野遺跡の三角形岩版は、表面が亀甲状、裏面が平滑的になっています。このような岩版は、青森湾周辺や黒石市近辺の浅瀬石川流域の遺跡からたくさん出土していることから、青森県の津軽地域を中心に製作されていると考えられています。

また、三角形岩版が出土する遺跡は、環状列石など膨大な時間と労力をかけて造られた配石遺構を有する場合が多く、小牧野遺跡と同様に配石遺構を祭りの場として使用し、その儀式などでも三角形岩版が使われているものと思われます。



初めて多量に出土した三角形岩版



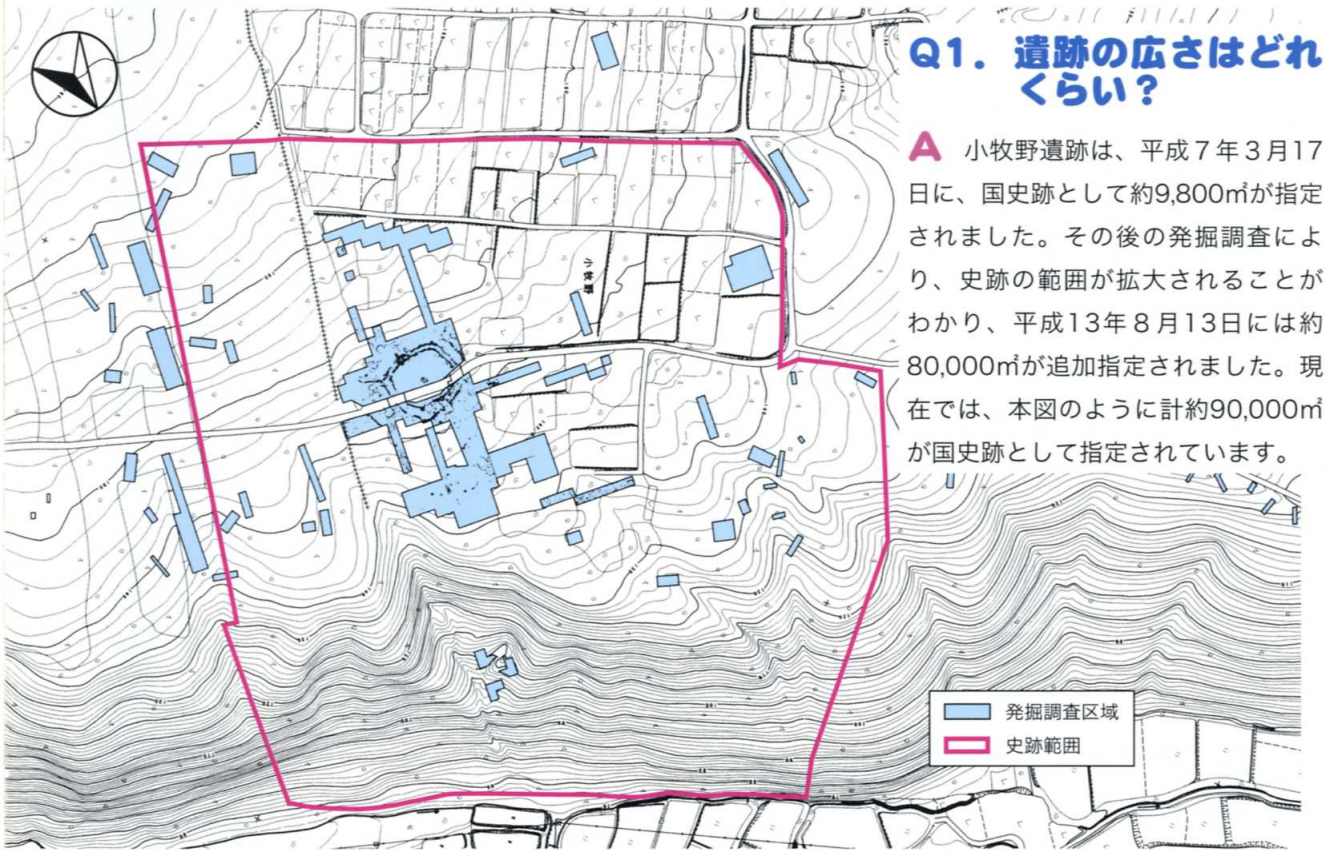
三角形岩版出土状況



三角形岩版の出土の分布

# Q&A

小牧野遺跡を見学されるお客様より、次のような質問がよくあります。



小牧野遺跡範囲 (1/4,000)

## Q1. 遺跡の広さはどれくらい？

**A** 小牧野遺跡は、平成7年3月17日に、国史跡として約9,800㎡が指定されました。その後の発掘調査により、史跡の範囲が拡大されることがわかり、平成13年8月13日には約80,000㎡が追加指定されました。現在では、本図のように計約90,000㎡が国史跡として指定されています。

## Q2. 環状列石は、どのようにして発見されたの？

**A** 小牧野遺跡は、平成元年度に地元の高校生たちの手によって発見されました。当時は、杉林と畑地が広がっていましたが、付近は「石神平<sup>いしがみでい</sup>」と呼ばれるほど、たくさんの石が地面の上に転がっていました。

これらの石は、すべて丸みを帯びた河原石だったため、通常、山の上にある訳がありません。

そこで、高校生たちは縄文人たちが運んできたものだろうという仮説をたて、地面に鉄の棒を突き刺す調査(ボーリング調査)をしたところ、たくさんの石が円を描くように地中に眠っていることをつきとめました。

そして、その部分を発掘調査した結果、地中から環状列石が姿をあらわしたのです。

## Q3. 環状列石の中にある馬頭観世音って何？

**A** 環状列石の中に入ると、嘉永7年(1854年)の年号が刻まれた江戸時代末期の馬頭観世音碑が建っています。

小牧野遺跡周辺の台地は、江戸時代から馬の放牧場として使用され、「小牧野」の地名はそのことに由来します。馬頭観世音碑は、当時の人々が放牧された馬を供養するため、元からその場所にあった環状列石の石を転用して建てたものと思われる。



現在も環状列石の中に  
建立されている馬頭観世音碑

## 小牧野遺跡の史跡公園化に向けて

小牧野遺跡の周辺では、縄文人が主食にしていたと考えられるクリやクルミ、ドングリなどの木が多く、秋には大量の実が収穫でき、果実やキノコ類なども多く見られます。環状列石を取り囲む森の中からは、毎日のように鳥たちのさえずりが聞こえ、時にはリスが木をよじ登る姿も見ることができます。

青森市では、このような自然に囲まれた小牧野遺跡を、発掘調査の成果をもとに、現在の自然環境を大切にしながら、当時の環境や植生の復元などを行い、「生きた歴史学習・体験の場」として多くの人々に親しまれるような「史跡公園」として整備します。

市では、これまで整備の方向性を示した「基本構想」（平成11年7月）および全体像を示した「基本計画」（平成12年3月）を策定しており、現在ではこれらの計画に基づき、用地取得や環境整備、遺構保存や模型製作などを進めております。



遺跡見学会の様子

## 小牧野遺跡の見学に際して…

- 小牧野遺跡では、現在、環状列石のみの展示となっております。また、冬期間は、積雪のため見学することができません。
- 環状列石は、非常に崩れやすいため、石の上に座ったり、蹴飛ばしたりすることのないよう、ご協力願います。
- 遺跡見学の際、車でおこしの方は、指定の場所に駐車願います。
- 大型バス等で見学を計画されている場合には、通行ルートや駐車場所が通常の場合と異なることがありますので、事前に下記問い合わせ先までご連絡ください。
- 遺跡には、「ミニ資料室」を設置しておりますので、気軽にご利用ください。（冬期間はご利用できません）



遺物撮影：千葉 浩 / イラスト：横山 智子

## メモ・記念スタンプ



問い合わせ先 青森市教育委員会事務局 文化財課  
 電話 017-761-4796  
 FAX 017-761-4792  
 Eメール bunkazai@city.aomori.aomori.jp